市立秋田総合病院広報紙

ふきのとう

fukinoto

2016
夏号
No.035

今年度は、看護師18名、薬剤師３名、理学療法士３名、臨床工学技士１名、管理栄養士１名、事務職員７名の計33名が４月から当院のスタッフとして新たにスタートを切りました。
患者様の笑顔のために明るく元気に頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。

認知症の早期発見と予防

精神科 科長　内藤　信吾

現在、国内の認知症患者は予備群を入れると800万人いると言われています。認知症は年を取れば誰でもなる可能性があり、重点的な支援と対策が急がれる病気の一つです。秋田県は世界一高齢化が進んでいる地域であり、認知症対策が日本一必要な地域と言っても良いでしょう。

認知症の早期発見

「以前と様子が違う」「今まで出来ていた事が出来なくなった」「何度も同じ事を話す（聞く）」「怒りっぽくなった」「失敗の言い訳が多い」「料理の味付けが変わった」「だらしなくなった」「薬の飲み忘れ・間違いが多い」「物をよく失くす」「スケジュール管理が出来なくなった」「道に迷う」「車の運転が下手になった」…

このような事が気になるようでしたら、当院精神科の「物忘れ外来」を受診する事をお勧めします。物忘れ外来では、①詳しい問診・認知機能検査（初回１時間程度）、②頭部MRI（またはCT）、③SPECT（脳血流シンチグラフィ検査）、④臨床心理士による生活状況のインタビュー、⑤血液検査などを行います。また必要であれば神経内科・脳神経外科と連携し診療に当たります。ご本人だけでなく御家族も一緒に受診されるのが望ましいです。最近では診察能力・検査法の進歩により、初期でも認知症の兆候を察知出来るようになってきました。認知症の多くは時間が経つと悪化します。早期発見し早い段階で治療を始めれば、薬や生活指導で出来るだけ進行を遅らせる事も可能です。

介護保険申請や介護度区分変更

かかりつけ医がいて介護認定を受けている人でも、認知症と診断されておらず、介護サービスを受けていても実際の様子に見合ったサービスを受けていない場合が多々あります。そのような場合は、かかりつけ医から物忘れ外来に紹介して頂き、認知症と診断されれば介護保険の区分変更を受けられる可能性があります。

ご不明な点があれば、当院の地域医療連携室・医療相談担当（018-823-4171）までご連絡下さい。

JMAT秋田県救護班活動のご報告

救急科 科長　長谷川　傑

４月14日、16日の熊本地震に際して、知事会を通じた救護班の要請がありました。秋田県でも19日に派遣が決定され、第一陣として県から６名、当院からは医師１名・看護師１名の派遣が要請されました。救急科長谷川とICU看護師の中村望歩さんが選抜され、23日に秋田を発って熊本へ向かいました。他には県職員１名、薬剤師１名（途中で交代）、脳研の鈴木理事長および伊藤看護師（途中で大学病院チームと交代）といったメンバーでした。前泊は福岡でした。同じ九州で激甚災害が起こったとは思えないほど普通でしたが、レンタカーを調達して向かった熊本は、やはり随所に建物被害が見受けられました。主な活動場所となった阿蘇市ですが、やはりブルーシートで覆われていた家屋が多数見られましたが、近隣のクリニックは90％以上が再開しており、医療ニーズは予想以上に少ないものでした。ただし病院職員、特に看護師さんが被災していて、小さい子供と避難所生活を送っているために出勤できなかったり、検査・放射線の技師さんが不足するなど、人的制約は多数みられました。秋田県救護班は阿蘇市の活動拠点本部に入り本部業務を行いました。阿蘇市の病院では看護師さんが圧倒的に不足しているため、救護班のメンバーから看護師さんだけ別行動を取ってもらい、病院夜勤に当てるなど、派遣調整が主な任務となりました。中村さんも近隣の病院で夜勤に当たってもらいました。以前、東日本大震災の２週間後にも救護班として行った経験と比較すると、広く広範に被災した東日本と異なり、狭い地域に深い傷跡を残した震災であったのだなと感じました。早急に仮設住宅の整備をしていただいて、不便な生活を送る方々が一人でも減少することを祈るとともに、１日も早い熊本の復興を願ってやみません。

部門紹介 放射線科

放射線科 診療放射線技師　山田　雅昭

病院の「放射線科」といえばどのようなイメージをお持ちでしょうか？「放射線科」は患者さんと接する時間が極端に少なく馴染みが薄いため、どのような診療科か分からない方もいらっしゃるかと思います。そこで簡単に私達「放射線科」の主な業務を紹介したいと思います。

放射線科は、放射線専門医を中心に放射線技師および放射線看護師とチームを組んで診療を行っております。放射線を用いた検査（X線・マンモグラフィ・CT・透視・血管造影・心臓カテーテル・核医学検査）や磁気と電磁波を利用したMRI検査および高エネルギー放射線を利用した放射線治療とIVR（画像誘導下で行う局所治療）など様々な機器を用いて、患者さんの情報を画像化し、得られた情報の提供と画像診断や治療を行うのが主たる業務です。現在、当院の放射線科は医師1名、技師15名、看護師4名、助手4名で業務を行っており、日常診療や緊急診療に対応できるよう365日24時間体制をとっております。最近では電子カルテやPACS（フィルムは使用せずに、モニター上で画像表示）システムを導入したことにより、院内や院外から依頼された検査に対しても迅速に画像や診断レポートの提供が可能となりました。放射線科は各診療科と連携し病院全体の医療を支える「縁の下の力持ち」とイメージいただけたら幸いです。患者様へ安心・安全でやさしい医療を目指し、より質の高い検査や治療を提供できるよう日々努力しております。疑問点などございましたらお気軽にいつでも声をかけてください。

シリーズ病棟紹介 ― 第５回 ―

6階北病棟（地域包括ケア病棟）

6階北病棟は、2016年3月1日より「地域包括ケア病棟」として新たな歩みを始め、6月より本格的に稼働を開始致しました。また6月からは、電子カルテの「地域包括転棟支援システム」の導入により、よりスムーズな運用を目指しているところです。地域包括ケア病棟では、すべての職種が協同して患者さん・ご家族と協力して、在宅復帰に向けた治療・支援、退院後のケアについてサポートすることを目指しております。

≪地域包括ケア病棟はどんな病棟？≫

「地域包括ケア病棟」開設の背景には、少子高齢化の進展と団塊の世代がすべて75歳以上の後期高齢者となる2025年問題が大きく関与しています。国は「地域包括ケアシステム」の構築を強化しており、従来型の「治す・救う」中心の医療から、「癒す・支える・抱えて生きる・看取る」を重視した生活支援型医療の比重が増加することを見越した対策を推進しており、「地域包括ケア病棟」もその対策の1つです。

地域包括ケア病棟は、急性期治療後の患者さんが、在宅・介護施設などへの在宅復帰に向けた、効率的な医療・看護・リハビリテーションを行うための病棟です。そのため、在宅復帰を強化するため、患者さん・ご家族・医師・看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカーなどが協力してケアを行っています。

≪転棟をお勧めする患者さん≫

- 入院治療により状態は改善したが、もう少し経過観察が必要な方
- 入院治療により病状が安定し、在宅復帰に向けてリハビリテーションが必要な方
- 在宅での生活に向けて調整・準備が必要な方

などです。地域包括ケア病棟は、「急性期治療後の患者さん」を主に対象としていますが、がん化学療法・緩和ケア・人工透析・摂食機能療法・手術・輸血などを行う患者さんの受け入れも可能です。また、白内障・大腸ポリープ・鼡径ヘルニア・前立腺生検など短期滞在手術を受ける患者さんの入院も受け入れています。

転棟していただく場合は、主治医が総合的に判断し、患者さんやご家族の方に提案させていただき、ご了解いただいた後転棟することとなります。ご不明な点は、各病棟のスタッフにおたずねください。

まだまだ慣れない部分もあり、日々学習しながら、また各部署の支援を受けながらの病棟ですが、スタッフが一丸となって取り組んでいます。みなさんよろしくお願いします。

6階北病棟看護師長　櫻田　明子

がん看護専門看護師について

がん看護専門看護師　石川　千夏

私は、昨年12月に「がん看護専門看護師」という資格を取得しました。看護師には様々な資格を持つ人が増えてきています。市立秋田総合病院にも、看護師の資格以外に専門的な勉強をして資格を取得し働いている看護師が多くいます。その中の一つとして、「専門看護師」があります。

ところで、「専門看護師」ってどんな資格なのでしょうか。あまり耳慣れない言葉だと思います。専門看護師は、特定の分野を掘り下げて学び、専門看護師資格認定審査に合格することで取得できる資格です。特定の分野には11の分野があり、「がん看護」はその中の１つです。秋田県では、私以外にも秋田大学病院、外旭川病院、大曲厚生医療センターで「がん看護」の専門看護師が働いています。また、「がん看護」以外の分野としては、秋田赤十字病院で「急性・重症患者看護」の専門看護師が働いています。

では、「専門看護師」ってどんな仕事をする看護師なのでしょうか。専門看護師と言っても何か特別な力を備えた看護師というわけではありませんが、幾つかの役割があります。専門看護師は、患者さんとご家族に直接関わらせて頂くのはもちろんのことですが、その他に、患者さんとご家族によりよい看護を行うにはどうしたら良いのか等、看護師や他の医療職からの相談に乗り、アドバイスを行って問題の解決を目指していきます。また、多くの医療職種間の調整を行います。例えば、患者さんの療養の場が病院から自宅へ移行する場合、療養の場が変わっても必要な医療が円滑に受けられるよう、医師や看護師、地域の訪問看護ステーションやケアマネジャー等、様々な職種に働きかけを行い、連携を推進していきます。専門看護師には、患者さんとご家族に起きている問題を総合的に捉えて、解決を図っていく役割が求められています。

ここからは少し、「がん看護専門看護師」についてお話をさせて頂きます。現在私は、「緩和ケアチーム」に主軸を置きながら、がん相談支援センターにもおります。また、医師から患者さんとご家族に行われる病状説明に同席させて頂き、一緒に説明を聞いた後、患者さんとご家族のお話をうかがいながら心配なことや気がかりに思っていることなどを確認しています。日本では、人が一生涯のうちにがんと診断される割合は、男性では２人に１人、女性では３人に１人と言われています。2011年にがんと診断された人は851,000 人います。医療が高度化し、検査や診断技術や治療方法が進歩した現在、がんは長くお付き合いしていく慢性疾患と言われるようになってきました。以前は入院で行っていた抗がん剤治療の多くは外来で行えるようになりました。そして何より、医師から病名を伝えられ、自分の病気を理解した上で、自分で治療を選択していくのが当たり前の時代となりました。このように、がんを取り巻く情勢はどんどん変化しています。でも、がんは自分の命を脅かすかもしれない病気であることに変わりはありません。がんと診断された時、主治医から治療方針を提示された時、治療を受けている時など患者さんとご家族は様々な感情を体験し、様々な悩みや気がかりを抱え、多くの意思決定をしていかなくてはなりません。そうした時に、主治医、看護師、薬剤師、社会福祉士、栄養士、理学療法士など多くの医療職種がチームを組んで患者さんとご家族を支えていきます。がん看護専門看護師もこうしたチームの一員として、専門看護師に求められている役割を果たしながら患者さんとご家族を支えていきます。もしご相談したいことがありましたら、いつでもお声をかけて頂けたらと思います。

グランドピアノ贈呈式＆記念コンサート

当院に新しくグランドピアノが仲間入りしました。その仲間入りを記念し、去る４月20日、外来ホールにおいて「グランドピアノの贈呈式」を開催しました。式では小松理事長のあいさつに続き、寄贈者である秋田信用金庫の平野理事長へ、感謝状が手渡されました。平野理事長のあいさつにもあったように、患者さんや病院利用者のアメニティーの向上に繋がるような活用をしていきたいと思います。

贈呈式に引き続き「グランドピアノ贈呈記念コンサート」が開催され、奏者には秋田市在住のジャズピアニスト早川泰子さんと、ギタリスト佐藤郁夫さんをお迎えし、～ SPRING JAZZ TIME!! ～と銘打ち、約80人の聴衆を前に演奏が始まりました。コンサートの中盤では小松理事長にもお声がかかり、早川さんとの連弾も披露されました。

グランドピアノとギターの美しい音色は外来ホールに響き渡り、アンコールも含め全10曲が演奏され、鑑賞した皆さんは心ゆくまでジャズを堪能した様子でした。

地域医療連携の会 会員紹介

にいつ内科クリニック
新津　秀孝 先生

診療科目 内科　血液内科
資　格 認定内科医
血液専門医

長らく勤務医として仕事をし、開業することには無縁と思っていましたが、縁あって2011年１月に秋田市広面樋の沖（城東十字路から東へ100ｍ）に「にいつ内科クリニック」を開業しました。同門（秋田大学第三内科）の吉田廣作先生の御厚意により吉田内科医院の建物、職員、患者さんを継承しました。1994年12月から2002年７月まで中通総合病院、2002年８月から2010年12月まで市立秋田総合病院血液腎臓内科に勤務しました。その時にお世話になった先生方には、今でも多大な御指導を受けています。感謝申しあげます。

当クリニックでは一般的な検査はできますが、胃、大腸カメラ、超音波検査（腹部、心臓）などの検査は各病院、あるいは専門のクリニックの先生にお願いしています。患者さんの訴えを丁寧に聞いて、適切に紹介して診断、治療につなげていくのが役割と考え診療しています。

私自身の健康に関しては、ここ２年間寒気、頭重感、めまい、背部痛などの症状に悩まされて来ました。各種の画像検査を受けても特に異常はないのですが、症状がでると不安と気分の悪さがあり、落ち込んでしまいます。検査で異常はないけど、症状があってつらいという患者さんの気持ちが少しわかるようになってきました。最終的には男性ホルモンの低下がわかり、市立秋田総合病院泌尿器科石田先生の御助言で症状は少しずつ改善しています。50代、60代の男性不定愁訴の患者さんには一度遊離テストステロンを測定してみることをおすすめしています。

通院している患者さんが、がんで亡くなるのはとてもつらいことです。患者さんには、早期発見のため、がん検診（大腸、乳がん、子宮がん）、胃カメラ、腹部超音波検査を積極的に受けるように日々の診療の中で話をして、確認をしています。

また、血液疾患の患者さんを診療してきた経験を生かして、血液疾患の患者さんの診療もしています。骨髄バンクの活動や、チェルノブイリ原発事故で被害を受けたベラルーシ共和国の留学生を受け入れている日本ベラルーシ協会の活動にも参加しています。

2011年３月、開業したばかりのところで東日本大震災があり、どうなることかと思いましたが、各病院の先生、各診療所の先生の御協力を受けながら、今年で６年目になりました。これからも患者さんが気軽に相談でき、患者さんの健康をサポートできるクリニックを目指して診療を続けたいと思います。今後ともよろしく御指導お願い致します。

認定薬剤師をご紹介します！

薬剤師は幅広い知識を持つお薬の専門家として薬物治療に携わっています。しかし、近年では医療が高度になるにつれ薬物治療も複雑化してきており、それぞれの分野において専門性をもつ薬剤師が求められてきています。

当院の薬剤部にも専門の認定を取得した薬剤師がいます。その活動をご紹介します。

◎感染制御認定薬剤師

- 抗菌薬や消毒薬の使用量や使用状況の把握などの適正使用に携わっています。血液中の薬物濃度の結果をもとに、抗菌薬の最適な投与設計を行い医師へ提案しています。職員対象に感染対策の研修会を開催したり、患者様への感染教室も行っています。

◎がん薬物療法認定薬剤師

- がん化学療法（抗がん剤を使用する治療）の治療計画を医師や看護師と共に作成しています。抗がん剤による治療計画や薬の説明を行ったり、身体的痛みで苦しんでいる患者様には医療用麻薬の説明を行うなど、がん患者さんを薬物療法の面でサポートしています。

また、近年は多職種が関わるチーム医療が推進されていますが、当院でも薬剤師が様々なチームに参加してチーム医療の一翼を担っており、その一部をご紹介します。

◎NST（栄養サポートチーム）

- 薬剤師は２名が交代でNST回診に参加しています。栄養薬剤の選択、薬剤の配合変化、栄養療法に関する合併症など、栄養療法に関する問題点・リスクを抽出し患者様により適正な栄養療法を提供できるように提言しています。

◎糖尿病療養指導士

- 糖尿病の患者様は継続的な自己管理が大切です。患者様自身が治療を十分に理解し、明確な目標を立て日常生活の中で実行していくため、服薬指導以外に自己注射手技指導や糖尿病教室での講義を通して適正な薬物療法を行うことができるよう支援しています。

当院自慢の行事食

栄養室では、１日一般食約200食、特別食約550食の計750食を作っております。１日３食の食事提供にスタッフが日夜奮闘しておりますが、その中でも年間14回程提供される行事食には特に力を入れております。また、栄養価・味はもちろんのこと、患者さんに季節を感じて頂けるよう心がけています。

今回は、春から初夏にかけての二つの行事食をご紹介します。

●一つ目は、４月桜の開花に合わせて提供される『桜ちらし弁当』です。

～メニュー～
- 桜ごはん
- 煮しめ
- うどのお吸い物
- 菜の花の和え物
- 若鶏の照り焼き
- 季節のフルーツ
- かに茶巾

毎年、栄養士全員で病院敷地内にある桜の枝を少し拝借し、一輪ずつ切ってお膳に添えています。

患者さんには、本物の桜を手にすることができると大変好評です。

●二つ目は、６月に提供される『味彩（あじさい）弁当』です。

～メニュー～
- ごはん
- 煮しめ
- じゅんさいのお吸い物
- わらびのお浸し
- 鮭のマヨネーズ焼き
- さつま芋茶巾
- 天ぷら
- あじさいゼリー

紫陽花の花に見立てたゼリーを添え、目でも楽しめるように工夫しています。

普段は食欲不振に悩む方でも、行事食となると「おいしかったよ。今日は全部食べた！」というお言葉をかけてくれることがあります。まさに努力が報われる一瞬です。

これからも日々、患者さんに満足した食事を提供していけるよう努力していきたいと思います。

栄養室　管理栄養士　佐々木美弥子

院内教室・健康講座のお知らせ

当院では、市民の方を対象に各種院内教室や健康講座を開催しています。ご参加をお待ちしております。
詳しくは、当院のホームページをご覧ください。

テーマ・内容	開催日	場　所	参加費／申込み	問い合わせ先
市立病院＆あらや健康セミナー	原則毎月第４木曜日	西部市民サービスセンター	無料／医療相談を希望する場合	医事課
転倒予防教室	年２クール（１クールにつき４回実施）	２階講堂	初回のみ 4,500 円／必要	医事課
市立病院＆タニタ健康カフェ	原則毎月第２水曜日	秋田タニタ食堂	750 円／必要	医事課
肝臓教室	年６回	２階講堂	無料／不要	医事課
糖尿病教室	原則毎月第２火曜日	２階講堂	無料／不要	薬局窓口
うつ病教室	年４回	１階外来ホール	無料／不要	４階病棟
感染予防教室	年３回	２階講堂	無料／不要	感染対策チーム
腎臓教室	年２回	２階講堂	無料／不要	医事課
がんサポート教室	年５回	２階講堂	無料／不要	がん相談支援センター
呼吸教室	年６回	２階講堂	無料／不要	リハビリテーション科外来
IBD教室	年２回	２階講堂	無料／不要	医事課

市立秋田総合病院

理　念

- 市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けます。

基本方針

- 常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院として多様化する医療への要望に応えます。
- 患者さんの権利や意思を十分に尊重し、診療情報の提供による相互理解に基づく医療を行います。
- 医療の安全のさらなる向上に努め、患者さんが安心できる医療を行います。
- 職員にとり働きがいのある就労環境の整備に努め、質の高い医療人を育成します。
- 業務の改善と効率的な運営に努め、健全で安定した経営基盤を確立します。

編集・発行／市立秋田総合病院　平成28年８月10日発行
〒010-0933　秋田県秋田市川元松丘町４番30号　Tel（代表）：018-823-4171　Fax：018-866-7026
E-mail：ro-homn@city.akita.akita.jp　http://www.akita-city-hospital.jp/